



次年度広報・公共イメージ向上委員会大塚委員長より発表がされました。RCを広く世間に認知してもらう活動として、今年度チャリティマラソン大会が開催され、大変大きな反響があり、次年度も継続開催する方向で検討しているとの報告がありました。また第2670地区(四国地区)ガバナー事務所が製作した『おしえてロータリー』という題名のアニメは、子供から大人まで幅広い世代にRCをわかりやすく説明した内容となっています。

次に次年度戸村地区クラブ奉仕委員長より「クラブ奉仕の役割」について発表がありました。

ロータリーは「出席・親睦・奉仕」の循環が大切であります。ロータリーはまず例会に出席し、会員同士の親睦を深めることから始まり、心の触れあいを深めた会員同士が奉仕活動に参加することで、ロータリアンとして高められた観念が生まれます。この高められた観念を自分の職場や日常生活の面に生かすことによって達し得た、より高い心の境地が再びクラブに還元されることにより、より豊かな親睦をクラブにもたらすことになる。「出席無くして親睦無し、親睦無くして奉仕無し」という所以がここにあると述べられていたのがとても印象に残りました。この考え方を基本に明るく楽しいクラブ作りに貢献していきたいと考えております。

次年度社会奉仕委員会 安藤亨委員長

協議会のご報告をさせていただきます。箕田パストガバナーより「この頃社会奉仕に限らずどの奉仕もお金や物を渡して終わりということがやや見受けられます。どうかクラブの皆さん汗をかいて下さい。何か行動して下さい。そのような形の奉仕が本来のロータリーの奉仕ではないでしょうか。」との話があり、とても印象に残りました。確かにその通りで我々は慈善団体ではなく寄付団体でもないので、奉仕という形を考えると汗をかいてやらねばならないのではないのでしょうか。

社会奉仕は最も地域にPRできるセクションであります。奉仕活動することによって、百合丘のこの地域で好感を持ってとらえられることで、会員増強の面でも大きな力になるのではないのでしょうか。

次に昨年9月に行われたアンケートの結果発表がありました。57クラブ全てから回答がありました。事業内容では人道的福祉活動(平和・国際親善・教育・医療・健康・授産・貧困など)73件33%、文化的スポーツ活動(展覧会・音楽会・芸術・歴史・学習・武道・野球など)30件14%、社会的活動(街作り・経済発展・交通・景観・町並み・公園・治安・観光など)116件53%となり一番多いのは社会的活動でした。また、ほぼ9割が継続事業でした。当クラブも足なが募金、清掃、青パトなどを継

続事業として行っております。できれば新しいものを見つけてチャレンジしてもらいたいと思います。

これからの新規事業についてですが1つの案として地球環境の緑化、たばこの吸い殻拾いや壁の落書き消しをすることによって犯罪の抑制になるのではないのでしょうか。2番目に地域の防災に役立つ活動。例えば保護犬の里親捜しなど。3番目は大規模災害の支援活動など。また、これから起こりうるであろう災害について地域の行政や消防、警察と連携しての支援など。最後に貧困児童に対する支援。これらを1つのヒントとしてみてはいかがでしょうか。

次年度国際奉仕委員会 中島眞一委員長

国際奉仕部門の分科会では「国際奉仕活動に挑戦しよう」というテーマで市川緋佐磨パストガバナーよりお話がありました。その中で、国際奉仕活動の立案、実行には複数年を要することがあるので、早い段階から戦略計画に組み込み、全会員周知の下で、そのプロジェクトの委員会を作って年度をまたいでも実行に移すことが必要であると述べられました。



続いて、地区国際奉仕委員会の石塚委員長より地区の来年度の方針について説明がありました。第1に地区では、積極的に国際奉仕活動をする意欲のあるクラブに対して、米山奨学会や米山学友会との連携で海外での具体的な支援のニーズ情報を収集していきます。第2にそういった情報を独自のホームページで詳細に報告して参考にして頂き、それを各クラブで大いに活用して頂くようにしていきます。3番目として参考となる資料や部内外の事例などを収集し、国際奉仕の啓蒙活動を行います。

実際の活動について、地区のグローバル補助金委員会の竹中委員長より説明がありました。グローバル補助金を使う事業については海外での事業のみでプロジェクトに持続性がなくてはいけません。例えば「水と衛生設備」というテーマがありますが、衛生状態の悪い地域に行って、井戸を掘り、水洗トイレを作るといったプログラムが立案したとして、井戸とトイレを提供したらそれで終わりというのではなく、それを清潔な状態で使い続け現地の人達の健康状態を向上させるという目的を達成するために、ロータリーで現地の人を教育してボランティアを育成し、彼らだけでそれを維持できるようになって初めてプロジェクトの完成だということを強調していました。これらのプロジェクトを行うことは、クラブのエネルギーとこれに対する入念な調査、これを最後まで成し遂げようという相当な覚悟が必要だと考えられます。地区の提供する情報を大いに活用して、意欲あるクラブにおいては、ぜひ前向きに、この奉仕活動を進めてほしいとのことです。